

安倍内閣の暴走にストップを！ 日本共産党演説会に450人

ご参加ありがとうございました

日本共産党上越地区委員会主催の演説会が1日夜、リージョンンプラザで開かれました。市内各地から450人以上の人たちがバスや自家用車などで駆けつけてくださり、集団的自衛権の行使容認、原発再稼働など安倍内閣の暴走にストップをかけようという思いがひとつになりました。

演説会では私が安倍内閣と対峙しない県議会の実情や県政の課題をお話しました。このなかで県予算に占める民生費の割合が47都道府県の中で最低であることや土木費の中などに無駄遣いがあること



まだまだ危険個所がいっぱい

県道新井柿崎線整備促進議員連盟（宮崎政国会長）は4日、現地調査と県への要望活動を行いました。同連盟は上越市議11人が超党派でつくっている組織ですが、この日の調査には県議4人と県上越地域振興局の担当者が同行しました。（下の写真は柿崎区馬正面地内）

今回の調査では地元から橋梁改良、歩道整備などの要望の出ている24か所のうち、7か所でマイクロバスを降りて調査しました。地元住民からは「車が通ると風圧がすごい。ここは通学路だ。とにかく人が通れるようにしてほしい」（高和町地内）「お年寄りが手押し車を押しても車道にひっぱられてしまう。歩道を平らにしてほしい」（馬正面地内）などの声が出ました。訴えが切実でした。一部で前進はあるものの、全体としては危険個所の整備のテンポはまだまだです。何とかしなければなりません。

現地調査の後、県の担当者に要望書を手渡し、意見交換会が行われました。担当者からは「歩道整備については道路改良とセットでできないものか検討している」「歩道の除雪が必要でない場所については、車道と同じ高さにして、車道除雪の機械で除雪することを試験的にやってみたい。その結果次第では全体に広げていきたい」と思っている」など注目すべき説明がありました。新井柿崎線は市内の県道の中でも重要な路線ですので、これからも整備促進をみんなで求めていきたいと思えます。

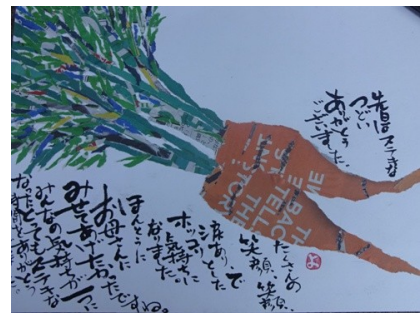


を指摘し、全国で12番目の財政規模となつている県予算を県民本位の使い方にするよう訴えました。また、福島第一原発の被災地を訪問したことや柏崎刈羽原発の再稼働に反対する県民署名、3万2868筆を持参して東京電力本社で交渉したことなどにもふれながら、柏崎刈羽原発の再稼働を許してはならないと強調しました。井上さとし参院議員が参院選後の国会審議の変化や軍国主義復活

を目指す安倍内閣のひどさを語りました。日本共産党ががんばり、力をつけること、政治が変わることをブルック企業規制の問題を例に紹介されたのはとてもよかったですね。これまでも井上議員とは災害救助法適用問題などで連携することが多かったのですが、その点の大切さについても語ってもらいました。私の話と井上議員の演説の合間に小田順子さんから、私のエッセー、「背なかき」を朗読してもらいました。ご参加いただいたみなさんに、この場をお借りして心からお礼申し上げます。



【トウキ】セリ科シシウド属の多年草。セリ科らしい小さな白い花を咲かせます。漢字で「当帰」と書きます。草全体から強い芳香があります。かつては虫よけのために部屋の中にぶら下げておきました。



高田のYさんから通常はがきの4倍の大きさのジャンボ絵手紙をいただきました。先日の出版記念会の感想が書かれていました。ありがとうございました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1669 2014.8.10
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たる記」はこちら

橋爪法一 検索

ちよっとした仕草が心にずっと残ることがあります。お世話になった飯川忠夫先生の葬儀の時のことでした。手を合わせて先生の棺を見送り、目を開いた瞬間、私の前を車いすに乗ったお連れ合いが左手でバイバイをしながら通り過ぎていかれたのです。

お連れ合いのユキさんがバイバイをした相手は言うまでもありません、霊柩車に乗せられた飯川先生です。この時、車は葬儀場である虹のホールの玄関を出て、五〇分ほど走っていました。

ユキさんのバイバイを見た時、これは夫への最後のサヨナラだと思いました。これといった理由はないのですが、白髪のユキさんの姿が横にすっと動くのを見てそう直感したのです。その後、ユキさんがどちらへ行かれたかは、その時点ではわかりませんでした。たが、たぶんご自宅に戻られたのだろうと推測していました。

この日は夏空でした。東の方角の山々を見ると、あちこちに入道雲が発生し、上空に向かってどんどん大きくなっていました。葬儀場に駐車しておいた軽乗用車は窓を少し開けておいたにもかかわらず、蒸し風呂のようでした。

冷房をかけ、数分後に車をスタートさせた私は、柿崎区の上下浜、坂田池のそばを通りいったん自宅に戻りました。その後、再び出かけたのですが、途中、退職校長会会長の佐藤義隆さん、短歌結社「北潮」代表の草間馨子さんの弔辞や喪主を務めた真理子さんなどの挨拶を思い出していました。

父親である飯川先生の思いを大切にして、最後は自宅に帰ってもらい、そこで息を引き取られたという話も感動的だったのですが、ユキさんの体調が思わしくない時に先生自らが台所に立たれたという真理子さんの話に引きつけられました。また、ご夫婦で高齢者福祉施設に入所後、肺炎か何かで入院された時の話もドラマチックでした。これはご長男の話です。一時は重大な事態になったけれども、先生は奇跡的に回復し退院、戻った施設内での運動会では選手宣誓をしたというのですから、びっくりでした。

葬儀が終わって数日後、私は飯川先生のお宅を訪ねました。長年にわたり励ましていたいただいたことへの感謝の気持ちを先生に伝えたいこともありました。出棺時に見たユキさんのバイバイが本当に最後のバイバイであったのかどうかを確かめてみたいという思いもあったのです。

お参りを済ませた後、お茶をいただきながら、真理子さんと話をしました。そこで飯川先生夫婦は五つ違いの夫婦であることや、ユキさんは私の母と同じ九〇歳で、しかも誕生日は母と一日しか違ってないことを初めて知りました。

お互いの父親のことも話題になりました。真理子さんによると、先生は三輪電動カー、トヨタの「ラクーター」を愛用されていました。施設に入所される前はこれに乗って買い物に出かけたり、医者へ行ったりされていたようです。ところが、年を重ねるうちに何度も危ない事故を起こしていたというのです。頭法寺集落の奥の方へフキノトウ採りに出かけた際、愛車とともにひっくり返って泥だらけになっていたこともあったそうです。いくつになっても、先生は春の香りを求めておられたんだなと思いました。

さて、バイバイについてですが、私の直感に当たっていました。ユキさんはあのまま施設に戻っておられたのです。思い出すと、ユキさんの最後のバイバイ、素敵でした。切なさはまったくなく、また会おうねと恋人に手を振るような雰囲気がありました。

市内各地で夏まつりにぎわう

2日、3日と吉川区、頸城区、安塚区、浦川原区など市内各地で夏祭りが行われました。私はこのうち、越後よしかわやっただれ祭りなどいくつかの祭りに顔を出させてもらいました。

2日の越後吉川やっただれ祭りは今年で16回目、ペットボトルを使った稲穂竿灯(写真左上)を始めてから10回目です。県立吉川高等特別支援学校のダンス(写真右下)でスタートしました。今回は中央ステージを原之町十文字に移し、本部席も小浜屋さんの脇になりました。米俵の奉納ルートもこれまでとは反対方向からになりました。

この晩はとにかく幸運だったと言わなければなりません。浦川原区の祭りが雨のため

中で中止になり、吉川区でも山間部で強い雨が降ったにもかかわらず、雨雲はやっただれ祭り会場だけは避けてくれたのです。

そういう中で、神輿行列も太鼓演奏も最高の盛り上がりを見せてくれました。神輿は十文字で柿崎方面と浦川原方面の二手に分かれて、復路ではまたひとつになって旧役場前へと進む、見事な演出でした。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月30日(水)	8月6日(水)
上越南消防署	0.030	0.030
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.043	0.046
頸北消防署	0.046	0.046
頸南消防署	0.047	0.043
東頸消防署	0.053	0.050
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.047	0.050



ちよっとした仕草が心にずっと残ることがあります。お世話になった飯川忠夫先生の葬儀の時のことでした。手を合わせて先生の棺を見送り、目を開いた瞬間、私の前を車いすに乗ったお連れ合いが左手でバイバイをしながら通り過ぎていかれたのです。

お連れ合いのユキさんがバイバイをした相手は言うまでもありません、霊柩車に乗せられた飯川先生です。この時、車は葬儀場である虹のホールの玄関を出て、五〇分ほど走っていました。

ユキさんのバイバイを見た時、これは夫への最後のサヨナラだと思いました。これといった理由はないのですが、白髪のユキさんの姿が横にずっと動くのを見てそう直感したのです。その後、ユキさんがどちらへ行かれたかは、その時点ではわかりませんでした。たが、たぶんご自宅に戻られたのだろうと推測していました。

この日は夏空でした。東の方角の山々を見ると、あちこちに入道雲が発生し、上空に向かってどんどん大きくなっていました。葬儀場に駐車しておいた軽乗用車は窓を少し開けておいたにもかかわらず、蒸し風呂のようでした。

冷房をかけ、数分後に車をスタートさせた私は、柿崎区の上下浜、坂田池のそばを通りいったん自宅に戻りました。その後、再び出かけたのですが、途中、退職校長会会長の佐藤義隆さん、短歌結社「北潮」代表の草間馨子さんの弔辞や喪主を務めた真理子さんなどの挨拶を思い出していました。

父親である飯川先生の思いを大切にして、最後は自宅に帰ってもらい、そこで息を引き取られたという話も感動的だったのですが、ユキさんの体調が思わしくない時に先生自らが台所に立たれたという真理子さんの話に引きつけられました。また、ご夫婦で高齢者福祉施設に入所後、肺炎か何かで入院された時の話もドラマチックでした。これはご長男の話です。一時は重大な事態になったけれども、先生は奇跡的に回復し退院、戻った施設内での運動会では選手宣誓をしたというのですから、びっくりでした。

葬儀が終わって数日後、私は飯川先生のお宅を訪ねました。長年にわたり励ましてくだいたことへの感謝の気持ちを先生に伝えたいこともありました。出棺時に見たユキさんのバイバイが本当に最後のバイバイであったのかどうかを確かめてみたいという思いもあったのです。

お参りを済ませた後、お茶をいただきながら、真理子さんと話をしました。そこで飯川先生夫婦は五つ違いの夫婦であることや、ユキさんは私の母と同じ九〇歳で、しかも誕生日は母と一日しか違っていないことを初めて知りました。

お互いの父親のことも話題になりました。真理子さんによると、先生は三輪電動カー、トヨタの「ラクーター」を愛用されていました。施設に入所される前はこれに乗って買い物に出かけたり、医者へ行ったりされていたようです。ところが、年を重ねるうちに何度も危ない事故を起こしていたというのです。頭法寺集落の奥の方へフキノトウ採りに出かけた際、愛車とともにひっくり返って泥だらけになっていたこともあったそうです。いくつになっても、先生は春の香りを求めておられたんだなと思いました。

さて、バイバイについてですが、私の直感に当たっていました。ユキさんはあのまま施設に戻っておられたのです。思い出すと、ユキさんの最後のバイバイ、素敵でした。切なさはまったくなく、また会おうねと恋人に手を振るような雰囲気がありました。

市内各地で夏まつりにぎわう

2日、3日と吉川区、頸城区、安塚区、浦川原区など市内各地で夏祭りが行われました。私はこのうち、越後よしかわやっただれ祭りなどいくつかの祭りに顔を出させてもらいました。

2日の越後吉川やっただれ祭りは今年で16回目、ペットボトルを使った稲穂竿灯(写真左上)を始めから10回目です。神輿行列も太鼓演奏も最高の盛り上がりを見せてくれました。神輿は十文字で柿崎方面と浦川原方面の二手に分かれて、復路ではまたひとつになって旧役場前へと進

む、見事な演出でした。この日、浦川原祭り(写真右下)では雨が降る前にテントを訪問、クレープやかき氷などを食べ、みなさんと交流してきました。

わが家で使っていたディーゼルエンジンと再会したい、そう思って安塚歩天まつりに行ってきました。残念ながら全く同じものとは出会えませんでした。それに近いものはありました。ディーゼルの懐かしい音、匂いに浸り、手動式のエンジンスタート、ベルトのワックスがけも見ることができました。



上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月30日(水)	8月6日(水)
上越南消防署	0.030	0.030
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.043	0.046
頸北消防署	0.046	0.046
頸南消防署	0.047	0.043
東頸消防署	0.053	0.050
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.047	0.050



ちよっとした仕草が心にずっと残ることがあります。お世話になった飯川忠夫先生の葬儀の時のことでした。手を合わせて先生の棺を見送り、目を開いた瞬間、私の前を車いすに乗ったお連れ合いが左手でバイバイをしながら通り過ぎていかれたのです。

お連れ合いのユキさんがバイバイをした相手は言うまでもありません、霊柩車に乗せられた飯川先生です。この時、車は葬儀場である虹のホールの玄関を出て、五〇分ほど走っていました。

ユキさんのバイバイを見た時、これは夫への最後のサヨナラだと思いました。これといった理由はないのですが、白髪のユキさんの姿が横にずっと動くのを見てそう直感したのです。その後、ユキさんがどちらへ行かれたかは、その時点ではわかりませんでした。たが、たぶんご自宅に戻られたのだろうと推測していました。

この日は夏空でした。東の方角の山々を見ると、あちこちに入道雲が発生し、上空に向かってどんどん大きくなっていました。葬儀場に駐車しておいた軽乗用車は窓を少し開けておいたにもかかわらず、蒸し風呂のようでした。

冷房をかけ、数分後に車をスタートさせた私は、柿崎区の上下浜、坂田池のそばを通りいったん自宅に戻りました。その後、再び出かけたのですが、途中、退職校長会会長の佐藤義隆さん、短歌結社「北潮」代表の草間馨子さんの弔辞や喪主を務めた真理子さんなどの挨拶を思い出していました。

父親である飯川先生の思いを大切にして、最後は自宅に帰ってもらい、そこで息を引き取られたという話も感動的だったのですが、ユキさんの体調が思わしくない時に先生自らが台所に立たれたという真理子さんの話に引きつけられました。また、ご夫婦で高齢者福祉施設に入所後、肺炎か何かで入院された時の話もドラマチックでした。これはご長男の話です。一時は重大な事態になったけれども、先生は奇跡的に回復し退院、戻った施設内での運動会では選手宣誓をしたというのですから、びっくりでした。

葬儀が終わって数日後、私は飯川先生のお宅を訪ねました。長年にわたり励ましていたいただいたことへの感謝の気持ちを先生に伝えたくかったこともありましたが、出棺時に見たユキさんのバイバイが本当に最後のバイバイであったのかどうかを確かめてみたいという思いもあったのです。

お参りを済ませた後、お茶をいただきながら、真理子さんと話をしました。そこで飯川先生夫婦は五つ違いの夫婦であることや、ユキさんは私の母と同じ九〇歳で、しかも誕生日は母と一日しか違ってないことを初めて知りました。

お互いの父親のことも話題になりました。真理子さんによると、先生は三輪電動カー、トヨタの「ラクーター」を愛用されていました。施設に入所される前はこれに乗って買い物に出かけたり、医者へ行ったりされていたようです。ところが、年を重ねるうちに何度も危ない事故を起こしていたというのです。頭法寺集落の奥の方へフキノトウ採りに出かけた際、愛車とともにひっくり返って泥だらけになっていたこともあったそうです。いくつになっても、先生は春の香りを求めておられたんだなと思いました。

さて、バイバイについてですが、私の直感に当たっていました。ユキさんはあのまま施設に戻っておられたのです。思い出すと、ユキさんの最後のバイバイ、素敵でした。切なさはまったくなく、また会おうねと恋人に手を振るような雰囲気がありました。

市内各地で夏まつりにぎわう

2日、3日と吉川区、頸城区、安塚区、浦川原区など市内各地で夏祭りが行われました。私はこのうち、越後よしかわやっただれ祭りなどいくつかの祭りに顔を出させてもらいました。

2日の越後吉川やっただれ祭りは今年で16回目、ペットボトルを使った稲穂竿灯(写真左上)を始めから10回目です。神輿行列も太鼓演奏も最高の盛り上がりを見せてくれました。神輿は十文字で柿崎方面と浦川原方面の二手に分かれて、復路ではまたひとつになって旧役場前へと進む、見事な演出でした。

3日のなかごう夏まつり。中学生のダンスパフォーマンス(写真)が終わった途

端、空にテープが舞いました。ゆるキャラ、「さとまる」がシャツに、食べ物にと大活躍していました。地域づくりをリードしているのは若者たち。そして若い人も高齢の人も力を合わせがんばっていました。中郷区は上越市内の地域づくりでもっとも注目を集めているところのひとつです。素晴らしかった。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月30日(水)	8月6日(水)
上越南消防署	0.030	0.030
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.043	0.046
頸北消防署	0.046	0.046
頸南消防署	0.047	0.043
東頸消防署	0.053	0.050
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.047	0.050

